

公共図書館におけるソーシャルメディアの受容

Adoption of Social Media for Public Libraries in Japan

学籍番号：201221607

氏名：吉田 泰久

Yasuhisa YOSHIDA

近年、Twitter や Facebook などのソーシャルメディアが注目されており、個人による利用だけでなく行政機関や民間企業においても積極的に活用されるようになってきている。その数こそ少ないものの、日本の公共図書館においてもソーシャルメディアの利用に関する報告はなされている。しかし、組織内部における運用実態については明らかにされていない。

そこで、本研究では、日本の公共図書館におけるソーシャルメディアの利用状況を把握するとともに、業務の中でどのように位置づけられているのか、つまりどのように受容されつつあるのかを明らかにする。

調査では、現在の日本の図書館の利用事例を考慮して、ソーシャルメディアのうち、とくに Twitter と Facebook を主たる調査対象とした。そして、Twitter および Facebook の利用状況調査およびインタビュー調査を行った。利用状況調査では、公共図書館により運用されている Twitter アカウントおよび Facebook ページの網羅的な収集を行い、利用状況について定量的な調査を実施した。加えて定性的な観点からの調査として、収集した Twitter アカウントのツイート直近 100 件について、内容と形態的特徴から分類を行い、Twitter がどのように利用されているのかを調べた。インタビュー調査では、Twitter および Facebook を利用している図書館を訪問し、ソーシャルメディアの業務における位置づけについて、利用目的や開設経緯、運用形態、実際の運用状況を尋ねた。

調査の結果、現在ソーシャルメディアを運用している図書館では、主に情報発信を目的として利用しており、双方向的なコミュニケーションは主眼とされていなかった。また、既存のメディアと比較して期待される点として、即時性のある広報や自治体外への情報発信に着目して活用が図られている。長所に加えて、低コストで利用を始められるという点が採用の理由として挙げられた。その一方で、ソーシャルメディアは新たなメディアであり、利用開始の提案や実際の運用において、関心のある職員のみが担当となっており、基本的な業務として位置づけられにくい側面があること、ならびに、継続的な運用体制の確立が課題として挙げられる。

研究指導教員：池内 淳

副研究指導教員：平久江 祐司